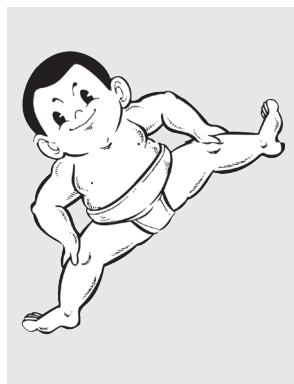


武道授業

実践の概要紹介

相撲

徳島市における中学校武道 必修化に向けた取組



徳島市教育委員会

徳島市は、徳島県の東部に位置し、美しい眉山の緑と清らかな吉野川など、豊かな自然に恵まれた人口26万人の県都です。「心おどる水都・とくしま」と将来像を定め、教育・文化・芸術・スポーツを通して生涯学習に繋がる創造的で心のこもった教育行政を推進しております。

徳島市教育委員会では、平成21年度より文部科学省の「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校事業」を活用し、武道授業の円滑な実施に資する取組を行っています。

1 はじめに

徳島市教育委員会では、武道の必修化に円滑に対応できるよう、平成21年度より徳島県教育委員会が実施している文部科学省の委託

事業「中学校武道・ダンス必修化に向けた地域連携指導実践校事業」を活用し、24年度に向けて取り組んでいる。

現在、24年度に実施する武道については、中学校15校中、柔道が5校、剣道が4校、相撲が6校という状況である。また、各武道の指導内容や指導方法についての研修は、徳島県教育委員会が実施している講習会を利用している。保健体育主任及び保健体育担当教員

に対し、指導力の向上や安全面への対策についての研修を進めている。また、DVD版「指導の手引き」を配付・活用し、各学校において、安全で効果的な授業ができるよう取り組んでいる。

今後、武道必修化が円滑に対応、推進できるよう、外部指導者の確

保や教員の指導力の育成、保護者への啓発等にも取り組んでいきたいと考えている。

武道用具等の対応については、

「中学校武道・ダンス必修化に向けた地域連携指導実践事業」を利用し、武道用具の整備を図っている。21年度には、4校（柔道2校、剣道1校、相撲1校）が、22年度には、3校（柔道2校、相撲1校）が指定を受けており、23年度には、8校が実践校に応募し、6校が実践校（柔道2校、剣道2校、相撲2校）として指定を受けている。現在13校が実践校として採択され、武道用具が県教委より支給されている。残り2校については、相撲を予定しており、簡易相撲まわし等を購入し、対応していきたいと考えている。

ここに紹介するのは、平成22年度文部科学省委託事業「中学校武道・ダンス必修化に向けた地域連携指導実践事業」の指定を受け、相撲の実践校の研究に取り組んだ徳島市徳島中学校の実践である。

2

徳島市徳島中学校の実践

(1) 学校・地域の実態

本校は、県都徳島市の中心に位置し、校区の南側には徳島駅前を中心に県内有数の繁華街がかえ、校区北側は住宅街が広がっている。

また吉野川や城山など、都市部でありながら自然環境にも恵まれている。徳島大学をはじめ多くの学校がある文教地区でもあり、地域や保護者の教育に対する関心は非常に高い。本校では、武道場の施設がないが、施設や用具の制約の少ない相撲を必修化ではないが実施していた。また、平成21年度まで開催されていた徳島市中学校総合体育大会相撲競技にも、出場するなど相撲との関わりは深い。

生徒は、全体的に明るく活動的で、学校行事など積極的に参加している。運動部活動も盛んであり、徳島県において優秀な成績を収めている。体育の授業においても運

動することが好きな生徒が多く、どの領域にも積極的に取り組んでいる。

(2) 学校及び武道の概要

武道の授業の状況等（生徒数は平成22年5月1日現在）

領域：武道（相撲）

		1年	2年	3年	特別支援学級	計
学級数		5	5	4	2	16
生徒数	男	80	82	82	3	247
	女	83	81	76	0	240
	計	163	163	158	3	487
配当時間数		12	12	12	(12)	36
配当教員数		2	2	2	2	8
外部指導者		0	1	0	0	1

教員数32名（保健体育科5名）

(3) 研究テーマ等

① 研究テーマ

外部指導者と連携して、相撲に関心を持たせ、礼法や基本動作、技を積極的に習得できる体育学習の展開

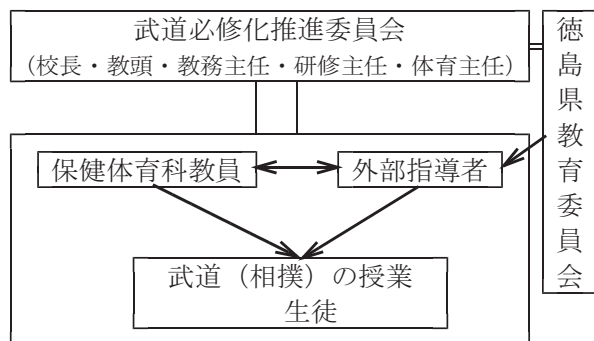
② 研究テーマ設定のねらい

本校には武道場がなく、武道の授業を実施するに当たって施設及び用具の制約が大きい。そんな中、比較的制約の少ない相撲を選択した。しかし、本年度は保健体育科教員の5名を含め、校内に相撲経験のある教員はいない。このような状況の中、相撲に興味・関心を持たせ、基本動作等の指導をスムーズに行う体育学習の展開を目指して、本研究テーマを設定した。

③ 取組体制及び授業の流れ

まず、取組体制として、校内に武道必修化推進委員会を設置し、新学習指導要領の趣旨を踏まえて円滑な相撲の授業が実施できるように研修を進めていった。（図1）相撲未経験の保健体育科教員は、県教委主催の指導者講習会に

【図1】取組体制の概要



参加し、相撲の礼法や基本動作の習得、指導法などを学んだ。単元計画の作成や授業を進めていく上で必要と考えたからである。指導者講習会后、相撲の授業を学校行事等の関係から11月に設定した。

本年度は、単元の導入時に外部指導者に来校いただき、相撲の歴史や相撲の授業に取り組むための心構えなどを話してもらった。武道の授業では、相手を敬う気持ちなどの礼法の部分が大切である。

外部指導者と保健体育科教員との間で共通理解が図られ、導入部分での礼法の指導に最も力を入れることになった。このことが、単元後半の簡易的な試合（相撲遊びを含む）をスムーズに進める大切な要素となった。

その後、外部指導者と保健体育科教員が協力して、基本動作や技の指導を進めていった。できるだけ基本動作や技を活かした試合経験ができるように簡易試合を入れるなど、授業の展開にも工夫を凝らした。また、施設面においては、土俵や相撲マットなどがないため、体操用のマットを活用し、活動の場の工夫も行った。

（4）授業事例

①目的

外部指導者と保健体育科教員が連携し、相撲の歴史や成り立ちを理解させ、相撲の基本技能を身に付けさせるとともに、相撲の楽しさを子どもたちに体感させる。

②具体的な指導方法

単元計画と1時間ごとの授業内

容については、資料1のとおりである。



基本動作（塵浄水）



簡易廻しの装着



基本動作（立ち合い）

また、基本動作を毎時間反復練習することによって、正しい姿勢や動きを身に付けさせた。そして、授業の後半には蹲踞からの押し相撲や、中腰の姿勢からの簡易試合などを行い、学習した基本動作が

まず、^{そんきよ}蹲踞^{ちりちよす}塵浄水：中腰の姿勢・四股など、相撲固有の基本動作を学ぶに当たって、外部指導者からそれぞれの動作の意味や目的について説明を受けた。単純な動作の中にも歴史的な意味や、試合での動きにつながるなどの目的を明確にすることで、生徒の基本動作の練習に対する動機付けにした。

【資料1】新学習指導要領に対応した単元計画の構造図(相撲) 中学校第1・2学年

内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
単元計画	○オリエンテーション ○歴史や特性について ○DVDでイメージ把握 ○礼法(蹲踞、黙想、塵浄水) ○まわしの締め方											
	共通メニュー(準備運動・本時の学習内容の確認等)											
	○まわしの装着 ○基本動作 ・蹲踞 ・塵浄水 ・中腰の構え ・腰割り ・運び足 ・伸脚 ○相手の動きに応じた基本動作(2人1組) ・仕切りからの立ち合い ・仕切りからの四つ身 ・受け身 ・受け身コンテスト ○禁じ技 ○立ち合いからの対人技能 ・「押し」 <約束練習> 押しのポイントを確認 ・「寄り」 <約束練習> 寄りのポイントを確認 ・「押し」「寄り」に関する前さばき ・「押し」「寄り」に関する簡易ゲーム ○簡易な試合 ・「押し」 ・「寄り」 「個人戦」 「団体戦」 学習ノートの完成 まとめ											
	共通メニュー(整理運動・学習の振り返り・次回の課題等)											
	1～2時間目は、安全上の留意点、2人1組・班別構成、単元のねらいと流れを把握させる。 遊び体験からの相撲要素の体感をさせる。 まわしの締め方の確認 気になる生徒の把握 基本動作の意味・名称を覚えさせる。 個人練習を行い、教師の言葉がけの基本練習で確認させる。 2人1組で対人的基本動作をさせる。 練習時には、練習の内容をしっかりと伝え安全に行わせる。その際には、禁じ技を知らせる。受け身に関しては十分に行わせる。 約束練習 押す側は、正しい姿勢で効果的な押し方を身に付ける。受ける側は、押す側が正しく押せるように引き立てていくと同時に、押されても十分に踏ん張らせる。 ごく簡単なルールで攻防を楽しませる。この段階で「押し」に対する意識をより一層深めさせる。安全に注意して、個々の体力差を十分に考慮して行わせる。											
技能	相撲の礼法 まわしの締め方 立ち合い・仕切り 受け身 対人技能「押し」 対人技能「寄り」 対人技能「受け身」 「投げ」 押し・寄りの前さばき 簡易な試合 「個人戦」 「団体戦」											
態度	準備運動や後片付けを積極的に行おうとする 相手を尊重する気持ちで礼をしようとする 審判や試合の役割を果たそうとする 練習や試合をするとき、仲間と協力したり助け合ったりしようとする 禁じ技を用いないようにする 健康・安全に気を配ろうとする											
思考・判断	本時の学習内容を確認する 技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける 課題に応じた練習方法を選び、自分の課題を見付ける 自分の役割に応じた協力の仕方を見付ける 学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめる											
知識	相撲の成り立ちや特性を書ける 関連して高まる体力要素を書ける 礼の目的を書ける 学習した技の名称や練習方法のポイントが書ける 押しー押しつけ 押しー絞り込み 寄りー巻き返し 上手投げー受け身 下手投げー受け身 簡易な試合でのルールや審判の仕方を書き出している 相撲学習のまとめ ※主に学習ノート等による評価											

③ 成果・課題
生徒たちは、初めて授業で相撲を体験したが、塵浄水などテレビの大相撲で見た動きなどに興味を持ち、礼法にも積極的に取り組め



簡易試合（押し相撲）の様子

試合の中で活かされるように工夫した。あわせて審判法の学習も行い、試合運営などを生徒たちで行い、礼法などの基本動作の確認を生徒同士で行えるようにした。活動の場の工夫として、体操用マットを利用して簡易土俵をつくり押し相撲や、寄り相撲を中心に行った。

【資料2】毎時間授業で利用した「『相撲』学習ノート」

す も う
『相 撲』 学 習 ノ ー ト

月 日 () 年 () 番・氏名 ()

A 本時の個人こじんの目 標もくひょうを書いてみよう。

B 本時の反省 → ○よくできた △まあまあできた ×あまりできなかった

C 前時の授 業じゅぎょうより、よくできた項目には → ◎

項 目	A	B
① 授 業 じゅぎょう の前後に、大きな声であいさつがきちんとできましたか		
② 授 業 じゅぎょう 中、元気よく意欲 いよくてき 的に活動できましたか		
③ 安全・健康面 けんこう に気を配り、仲間と協 力 きょうりょく して活動できましたか		
④ 蹲踞 そんぎょ 、塵 浄 水 ちりじょうず の動作がきちんとできましたか		
⑤ 基本動作を正しい姿勢 しせい で、正しい動作ができましたか		
⑥ 仲間と協 力 きょうりょく して、約束練習 やくそく ができましたか		
⑦ 自分の能 力 のうりょく に適した基本となる技 きほん を試合で活かすことができましたか		
⑧ 簡易試合の判定には、公正な態度がとれましたか		
⑨ 試合のすすめ方など、審判 しんぱん の仕方が理解 りかい できましたか		
⑩ まわし・相撲マットなどの用具の安全を確認できましたか		
⑪ 手・足の爪 つめ は、安全に短く切っていましたか		

D 本時の感想かんそうや次時の目 標・課題もくひょう かだいを簡単に書いてみよう

た。また、簡易試合などを行い相撲の楽しさを十分に体感すること

ができた。相撲未経験の保健体育科教員も、外部指導者と連携する

ことで相撲の基本動作や立ち合いからの対人技能などについて指導

することができるようになった。
授業の中で基本動作の目的や意味を明確にすることによって生徒の学習への意欲が高まったように思う。また、歴史的な成り立ちを理解することで、相撲は単なる格闘技ではなく、武道として相手を敬う姿勢が必要であることを学ぶことができた。この姿勢こそが、試合を展開する上で、生徒たち自身が安全面に配慮することにつながった。

土俵や相撲マットがないので、投げ技等の練習が十分に行えず、試合でも押し、寄り等が中心になり、投げ技の学習が今後の課題である。

(5) 今後の展望

今年度は、外部指導者と連携をとり、授業を進めた結果、学習ノート(資料2)の記録からわかるように、生徒たちの相撲に対する関心は高まり、相撲が楽しいものであると感じることができたようである。指定を受けての授業実践ということ、礼法や基本動作に

重点をおいた指導になった。今後は技の学習についても深めていける授業展開を研究していきたい。今回、外部指導者が学校へ来ることができる時間に相撲の授業を組み込んだため、時間割の変更が多くなったことが問題である。管理職や教務主任と連携を図りながら、全教職員の共通理解のもと取り組んでいく必要がある。

3 おわりに

徳島中学校では、授業の中に相撲を取り入れ、生徒の達成感や学ぶ意欲を大切にしながら実践に取り組んできたが、武道必修化に向けて環境整備の充実や指導体制面での課題が明らかになった。

平成23年度は、徳島市の他の2校において「中学校武道・ダンス必修化に向けた地域連携指導実践校事業」の指定を受け、相撲の授業の実践研究を推進している。

徳島市教育委員会としては、指

今後も地域との連携を図りながら相撲の授業実践を進めていきたい。そのためには、保健体育担当教員の指導力の向上を図ることも大切である。講習会等に積極的に参加していきたい。また、用具面においては本年度、簡易廻しを準備していただいた。さらに、来年度以降は、相撲マットなどの活動の場を整備する必要がある。

指導者としての資質向上を図るため、8月11日に「徳島市中学校武道必修化に向けた教員のための指導者講習会」を実施した。また、施設面での環境整備として、平成24年度には、相撲実施校には、相撲マットの購入も予定している。

今後は、徳島中学校の実践を通して得られた成果と課題を踏まえながら、徳島市のすべての中学校で、武道必修化が円滑に推進できるように、徳島県教育委員会と協力



徳島市中学校武道必修化に向けた教員のための指導者講習会での相撲の講義の様子

しながら、必要武具等を整備するとともに、教員の指導力の育成のための講習会や研修会の実施、外部指導者の確保等に取り組んでいきたい。

【資料3】徳島中学校での相撲の授業展開例1

学 習 の ね ら い ・ 活 動	
はじめ 50分×2	学習Ⅰ ○運動の特性や学習のねらい、計画、内容を理解する。 ○相撲の学習準備をする。 ○まわしの締め方（着装） 1. オリエンテーション ・特性、ねらい・計画 ・グループ編成 2. まわしの締め方や礼の仕方
なか 1 50分×3	学習Ⅱ ○相撲の基本動作の意味や意義を理解し、その技能を身に付ける。 ○相手の動きに応じた基本練習（2人1組） ○受け身 1. 蹲踞、黙想、塵浄水 2. 準備運動、まわしの点検 3. 基本動作1 ・蹲踞の姿勢、塵浄水、中腰の構え、腰割り四股、伸脚、運び足、仕切りを身に付ける。 4. 基本動作2 ・2人1組の対人で仕切りからの立ち合い、受け身、組み方を身に付ける。
なか 2 50分×4	○基本となる押し、寄り、投げ、前さばきとそれに関連した技能を身に付け、それらを用いた練習ができるようにする。 1. 蹲踞、黙想、塵浄水 2. 準備運動、まわしの点検 3. 基本動作1 ・蹲踞の姿勢、塵浄水、中腰の構え、腰割り四股、伸脚、運び足、仕切りを身に付ける。 4. 立ち合いからの対人技能 (1) 押し ・ 押しの基本とポイント、約束練習による押しの確認、押しによる簡易ゲーム (2) 寄り ・ 寄りの基本とポイント、約束練習による寄りの確認、寄りによる簡易ゲーム (3) 前さばき、投げ、受け身 ・ 押しと前さばき、寄りと前さばき、投げと受け身、受け身コンテスト 5. 自由練習 6. 整理運動、まとめ及び次時の予告
50分×2	学習Ⅲ ○簡易的な試合における約束事を守り、安全に気を配るようにする。 1. 蹲踞、黙想、塵浄水 2. 準備運動と基本動作 3. ごく簡易な試合（個人戦・団体戦） ・ 押しによる試合 ・ 押し、寄りによる試合 4. 整理運動
まとめ 50分×1	○学習ノートの完成、相撲学習のまとめをする。 1. 蹲踞、黙想、塵浄水 2. 準備運動と基本動作 3. ごく簡易な試合（個人戦・団体戦） ・ 押しによる試合 ・ 押し、寄りによる試合 4. 整理運動 5. 学習のまとめ ・ 単元末の小テスト 6. 蹲踞、黙想、塵浄水

【資料4】徳島中学校での相撲の授業展開例2

(1) 本時の目標 (5/12)

- ・対人からの立ち合い、組み方を正確に身に付けることができる。
- ・相撲の受け身について、正確に身に付けることができる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	学習活動における 具体的な評価基準
10	1. 集合、整列、健康確認、挨拶・服装点検 2. 本時の学習内容 ねらいの確認	・お互いに協力して「廻し」を締め合う。 ・集合、整列、係の指示で蹲踞し、塵浄水をさせる。(健康観察、服装点検) ・本時の学習内容について理解させる。 ・個人の目標を設定し、学習ノートに記入させる。	自分の課題を見つけ て書き出している。 (思考・判断)
30	3. 準備運動・基本動作 ①蹲踞 ②塵浄水 ③中腰の構え ④腰割り ⑤すり足 ⑥伸脚 ⑦仕切り 4. 対人からの基本動作 を身に付ける。 (1) 仕切りからの立ち 合い (2) 組み方 5. 相撲の受け身を身に 付ける。 (1) 受け身コンテスト	・自己の体調に合わせて安全に運動を行っているか、声をかけながら観察していく。 ・主運動を円滑に行うために積極的に取り組ませる。 ・相撲の対人からの基本動作を身に付けさせる。(DVD視聴・教師の模範) ・禁じ技の確認をさせる。 ・練習相手に練習内容を伝え、約束練習形式で行う。 ・安全に注意しながら行うように助言していく。 ・相撲の対人から相撲の受け身を身に付けさせる。(DVD視聴・教師の模範) ・あごを引いて前回りができるように教師が頭を押さえながら回してやる。	仕切りからの立ち合 いや組み方ができ る。(運動の技能)
	 受け身の学習の様子		安全な受け身がで きる。(運動の技能)
10	6. 整理運動 7. 本時の評価と次時の 課題確認 8. 整列、挨拶、片付け	・けがの有無を確認し、疲労回復の大切さについて知らせながら実践を促す。 ・学習ノートに本時についての感想や・自己評価を記入させる。 ・目標達成に意欲的な生徒を評価し、賞賛する。	本時を振り返り、自 己評価をしようとす る。(関心・意欲・ 態度)